

東京 2020 大会の出場を目指すアスリートの皆様へ

令和 2 年 3 月 24 日に実施したバハ国際オリンピック委員会(以下:IOC)会長と安倍総理大臣との電話会議ののち、IOC 理事会は東京 2020 大会を延期とせざるを得ないこと、遅くとも 2021 年夏までの実施に向けて具体的に検討していくことを決定しました。

アスリートの皆様におかれましては、東京 2020 大会まであと 4 ヶ月と迫っていた中、人生を賭して、ひた向きに競技に取り組んでいたことと思います。新型コロナウイルスの急速な広がり、世界中のアスリートの練習会場の閉鎖や大会の中止といった状況を生むこととなり、私達の競技活動が健康で平和な社会のもとに成り立っていることを日々感じています。

私は、1980 年に開催されたモスクワオリンピックの日本代表選手でした。当時 23 歳でした。子どもの頃みた、1964 年東京オリンピックでの日本代表選手の活躍に胸を躍らせ、日の丸が真ん中に揚がった時は子ども心にも胸が震えました。その時の気持ちが私をオリンピックへと向かわせました。モスクワオリンピックの参加不参加の動向が決まらない状況においては心が揺れて練習に身が入りませんでした、目標は揺るぎませんでした。

今回の決定により、選手強化の現場では様々な形での動揺や混乱が生じているかと思えます。しかし、現状を冷静に、そして、前向きに受け止め、目標に向けて全力を傾注して頂きたいと切に願います。

日本オリンピック委員会は、常にアスリートの皆様や選手強化の現場とともにあります。皆様が生き活きと輝き、万全の状態ですら試合に臨めるよう引き続き全力を尽くしてまいります。

令和 2 年 3 月 25 日

公益財団法人 日本オリンピック委員会

会長

